

Weekly Market Report

Jan 4, 2021

1. 為替相場概況

今週の最注目イベントは1月5日(火)の米・ジョージア州決選投票。ブルーウェーブに警戒。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

2020年最終週の米ドル円は明確な方向感に欠け、概ね103円台で上下するレンジ相場となった。基本的には日米欧株式市場の堅調な値動きを受けたリスクオンのドル売りや、対ユーロでのドル売りがベースとなったドル安・円高基調ではあるが、米・追加経済対策の個人給付金額に対してトランプ大統領の反対が入るなど局所的にリスクオフのドル買いもあり、週を通して一進一退で推移している。今週の最注目材料は1月5日(火)の米・ジョージア州決選投票。(信頼性は兎も角)世論調査では2議席ともに民主党がリードしているとの報道もあり、仮にその通りとなると大統領・上下両院が民主党確保のブルーウェーブが実現する。その場合、大型財政出動が予想され、米国内金利には上昇圧力がかかり易くなり、理論株価の低下から米国株安→リスクオフのドル買いが連想される。(市場営業部/高橋)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
1/5(火)	(米国) ISM製造業景況指数	56.5
1/5(火)	(米国) ジョージア州決選投票	
1/6(水)	(米国) FOMC議事録	
1/7(木)	(米国) ISM非製造業景況指数	54.5
1/8(金)	(米国) 雇用統計	

USD/JPY (5年間)



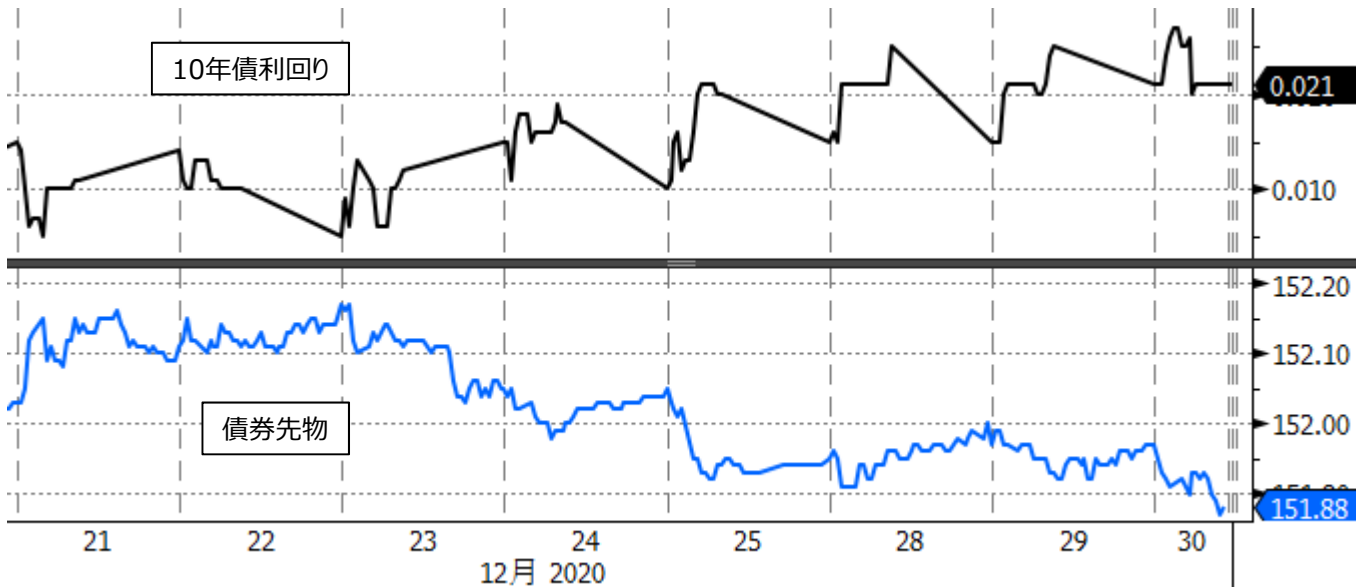
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
浅川雅也	102.40 - 103.75	ドル売りトレンド継続を予想。但し、GA上院決選投票で民主党勝利となれば、米金利上昇→ドル買い戻しの可能性あり
梅村隼人	101.50 - 104.50	5日の米ジョージア州上院決選投票、緊急事態宣言の再発令等リスクオフの要因が多く、ドル円の上値は限定的と予想。

2. 円金利相場概況

新型コロナ、政治イベントのトピックスに一喜一憂する相場展開は継続

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

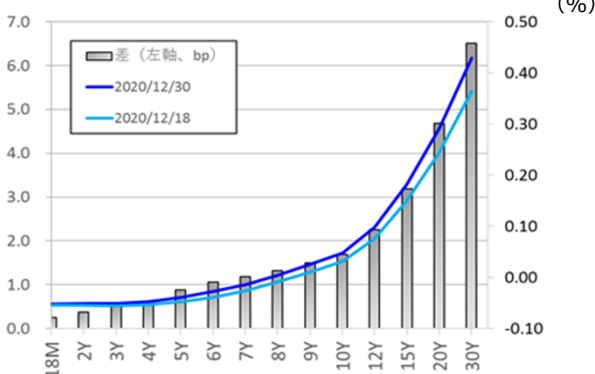


GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright© 2021 Bloomberg Finance L.P. 04-Jan-2021 07:19:18 (出所) Bloomberg

コメント

前月末の長期金利（10年債利回り）は、21日から年末にかけて金利が上昇する展開となった。21日から23日にかけては、英国で発見された新型コロナウイルスの変異種への警戒感からリスクオフムードとなり長期金利は低下。21日に週最低となる0.005%を示現。しかし、変異種のトピックスによるリスクオフムードは長続きせず、24日英国と欧州連合（EU）との間で新たな貿易協定などに関する合意に至ったとの報道から、長期金利は一転上昇。0.021%まで上昇し、年内の取引を終えた。今週は、5日の米ジョージア州の上院議員の決戦投票などの米国における政治イベントに加えて、日本における緊急事態宣言の再発令の可能性が指摘されるなど、リスクオフ要因が多いことから長期金利は低下する可能性が高いと考える。（市場営業部/梅村）

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.00% - 0.04%	新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言への警戒感から、円金利は底堅い推移を予想。米ジョージア州選挙結果には注目。
伊豆浦有里恵	0.00% - 0.03%	5日のジョージア州上院決戦投票、10年債、30年債入札への警戒感から波乱含みも、金利は現状水準を維持する見通し。

3. 今週のトピックス

2021年のドル円相場見通し

ドル円相場は当面下落トレンドが継続するも、年の後半は新型コロナの収束期待で上昇基調に回帰か

<2020年の主要通貨の推移>

2020年における主要通貨の対ドルパフォーマンス【図表1】を見てみると、EUによる新型コロナ復興基金への期待からユーロが大幅に上昇したほか、中国の需要回復を受けて豪ドルも堅調な推移となった。円は年初来で5%程度の上昇。

<2021年のドル円相場見通し>

2021年末：107.00円（高値112.00円、安値99.00円）

2021年のドル円相場については、米国FRBによる強い金融緩和姿勢を受けたドル売りトレンドが継続する中、新型コロナウイルスの感染再拡大もあり、年前半は下落基調が続くとみられる【図表2】。ただし、年の後半になると新型コロナウイルスの収束期待からFRBの緩和姿勢は弱まってくるとみられ、ドル円相場も緩やかな上昇基調に回帰していくと予想。なお、ドル円相場の下落局面では、GPIFなど機関投資家による海外投資や海外M&Aの活発化が相場を下支えすると見込まれる。

<2021年の注目テーマ>

① 米国FRBと日銀の金融政策

FRBは2020年9月のFOMCで平均インフレ目標を導入し2%を超えたインフレ水準を許容する姿勢を表明、12月には資産買入れに関するフォワードガイダンスも強化している。ドットチャートのFF金利見通しは2023年までゼロ水準となっており、FRBの強い緩和姿勢は米国実質金利の低下を促し大きなドル売り材料となっている【図表3】。一方、日銀は当面追加緩和を行わず様子見姿勢を継続するとみられ、ドル円相場が100円を割れるような円高にならない限り、マイナス金利深堀りなどの検討は行わないと予想される。日銀の金融緩和姿勢はFRBと比較して相対的に弱いといえ、円高要因の一つとなってくる。

② 新型コロナウイルスの感染拡大とワクチン開発

新型コロナウイルスについては、欧米での感染再拡大で世界景気への悪影響は当面継続。ただし、ワクチンが一般まで配布されるようになり、新型コロナウイルスの収束が視野に入ってくると、景気見通しの大きな改善が期待される。

③ 米国新大統領の政策

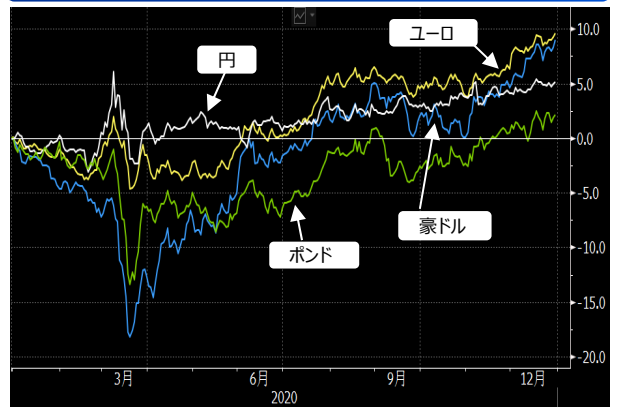
民主党バイデン新大統領の誕生がほぼ確定したが、上院の過半数を共和党が獲得した場合はねじれ議会が継続する見込み。バイデン新大統領の基本政策は、財政拡大、増税、国際協調、環境重視であるが、トランプ大統領時代に悪化した同盟国との関係改善は世界経済の回復を後押しする好材料といえる。

④ 米国と中国の対立

バイデン新大統領は中国に対して貿易面ではこれまでより穏和的なアプローチをとるとみられるが、テクノロジーや軍事的分野での根本的な対立関係は継続。特に中国の南シナ海進出や香港統治、台湾問題においては突発的な軍事衝突などリスクオフシナリオとして警戒しておく必要がある。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我)

【図表1】 主要通貨の対ドルパフォーマンス(2020年)



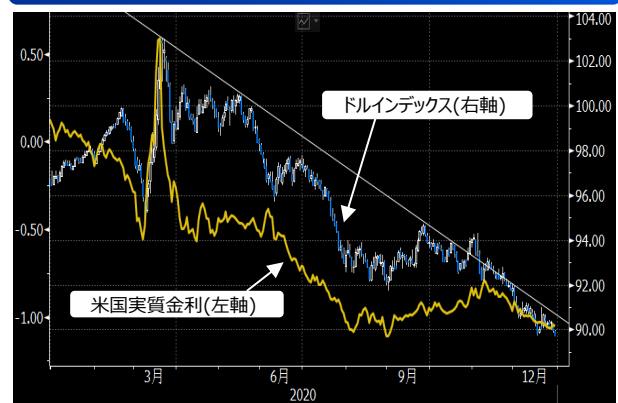
(出所:Bloomberg)

【図表2】 ドル円相場の推移 (2011年-2020年)



(出所:Bloomberg)

【図表3】 米国実質金利とドルインデックス(2020年)



(出所:Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会